



シルバーだより

No. 287

平成 26 年 5 月 1 日

荒川シルバー大学

荒川区荒川 3-49-1

岡田芳子

TEL 3801-5740

FAX 3801-5691

創立 31 周年のスタートにあたって

学長・健康体操教室講師・今と昔の街歩き教室講師 望月 公子

我がシルバー大学は、世界一の長寿国日本の中でも、抜きん出た歴史と規模を誇っております。今年度は、31年の歴史と901名・30講座・37教室で出発しました。

去る4月14日には、公務でお忙しい中を荒川区長 西川太一郎様をはじめ多くのご来賓のご臨席をいただき、盛大に創立31周年の開講・入学式が終了いたしました。また新入学生をはじめ多くの学生が式を盛り上げてくださいました。ありがとうございました。



荒川シルバー大学は、30年前148名の有志によって創られた大学です。その有志が今年度は902名に増えた成長途上中の学校であり、輝かしい日本を築きあげてきた荒川区の人たちが、今度は自分自身のために学ぼうと集まった学びの場です。

この『自分たちの為の自分たちの学校』をここまで守り続けてきたのは学生自身でした。このことは、『自分の人生は、自らの才覚で作りに上げていく』という自由闊達な荒川区特有の心意気に支えられており、今年も多くの学校行事に変わることなく生きています。さらに講師の先生方も、学校設立時の熱い思いに共感して、積極的に教鞭をとってくださっています。ありがたいことでもあります。

5月から本格的に講義が始まります。新しい出会いのスタートの時を大切にしましょう。同じ目標を持ち、同じ時間を持つ大切な学友との出会いです。テレビやパソコンなどの機械と向き合う時間が多くなってきた今だからこそ、講義を通して語り合う喜びを大切にしていきたいものです。

私は、シルバー大学に関わるようになってから《大人の学び》とは、教えられるのを待つ教育ではなく、受容を土台とした協育だと考えるようになりました。校歌をそのまま実現できるように全員で協力してまいりましょう！！

最後になりましたが、荒川シルバー大学の成長を見守ってくださっている荒川区の方々感謝すると共に、今年度もご支援をよろしくお願い致します。

俳句教室講師 田中 京

荒川シルバー大学に俳句教室が復活して 1 年経ちました。ここで教室の紹介をさせていただくにあたり、やはり、そもそも俳句とは何かということをお話しないわけにはいかないとします。

俳句は一言で言えば、瞬間を切り取り、季語に託して自分の思いを、5・7・5の詩形の中に詠むものです。世界で一番短いと言われる詩の中に、自分の思いを詠むというのは、そう簡単なことではありません。また、いろいろなお稽古ごとのように、練習すれば級が上がるとか、教本が仕上がって次に進むとか、目に見える形で上達がわかるものではありません。

でも、季語を使い、5・7・5で詠むという決まりさえ守れば、自分の言葉で自由に思いを表現できる喜びがあります。通常、旧仮名遣いが使われるので、用語に慣れる必要がありますが、歳時記と国語辞典が手元があれば、時間的、空間的に自由に思いを巡らせて作句することができます。

俳句と短歌の違いについて、少し考えてみましょう。俳句は今を切り取るものですから、ある意味、写真のようなものと言えるかもしれません。自分の感性が捉えたある一瞬の場面を、カメラで写すのではなく、言葉で表現しようとするのです。それに比べて短歌は、5・7・5・7・7と字数が多く、時間の経過や物事の結果までを伝えようとするものと言えます。ですから、俳句が写真と似ているなら、短歌はビデオと似ていると言う人もいます。

俳句とは何かということについて、少しわかっていただけましたでしょうか？長年俳句を作ってきて、ちっとも上達したという実感はありませんが、私の今の時点での俳句への思いを、もう少しお話ししたいと思います。

俳句の良さは、紙と鉛筆さえあれば、いつでもどこでもできるということです。そして、できた俳句を持ち寄って行う俳句会では、自分の句を他の人がどのように受け取ってくれたかを知ることができます。また他の人の句を鑑賞することにより、その人の体験した事を想い共感したり、新しいものの見方や表現の仕方に、感動したりすることができるのです。俳句は一朝一夕で上達できるものではありませんが、俳句会に出席した他のメンバーとの会話もまた楽しみの一つです。このように魅力のある俳句、ご興味のある方はいつでもお気軽に見学にいらして下さい。



ハナニラ



奨励賞の謝辞を読んで



10年の年月は、長く感じる人、短く感じる人、それぞれ感じ方が違いますが、私は短く感じました。奨励賞の謝辞を読む順番が今年は町屋地区とのこと、「私に」と言われました。不安がつのり後日お断りしましたが、『ぜひお願い』と言われ読むことを決意しました。「頭の体操教室」の先生に相談をして、私自身の事を少し付け加えていただき謝辞が完成しました。

10年を振り返れば思い出がいっぱいです。私は書道教室に10年お世話になりました。小学三年生の時以来、筆を持った事がなかったので、今思えば字になっていない字でした。今も決して上手ではありませんが、続けています。また頭の体操教室が7年前に出来ましたので、最初から入りお世話になっています。読み書き計算を中心に色々なことを学びながら、楽しく脳を鍛えていく笑いの絶えない教室です。このたびは謝辞を読ませて頂いて、良い思い出になりました。ありがとうございました。

34班 関 夏子



卒業式を終えて



春一番が都会に吹き荒れた3月18日、荒川シルバー大学の卒業式が行われました。82名の代表として答辞を読むことになりました。

社会人になってからの卒業式は、「学校」まして「後期高齢者」として、経験しようにも出来ない経験を致しました。何をめざし、何を残したいといった気持ちは、その都度心に決め、挫けないように頑張ってきたつもりだったのですが、結局無色のまま過ぎてしまいました。

ふと回想してみましたら『間』という大事な生き方を学ばせていただきました。政治や外交のみならず、相手が仕かけてくるワナに嵌らないようしっかりと『間』を持つ事、それは心をつくる事、一呼吸する事である。

当日先生がアドバイスしてくれました。「一呼吸して」無事に答辞を読む事ができました。有難うございました。3年間の課程を修了し、無事卒業出来ましたこと、学長・理事長・諸先生をはじめ、関係各位の心温まるご指導と励ましの賜物と心より感謝申し上げる次第でございます。

荒川シルバー大学の諸先生はじめ、大勢の生徒仲間達のご健康をお祈り致します。5年、10年と許せる限り継続して学んでいきたいと願っている自分です。（『経験は誤りではない』＝ダヴィンチ）の言葉である。

39班 春日美智子

平成26年度開講式並びに入学式

平成26年4月14日(月)、26年度開講・入学式が、曇りとは云えども温暖な気候の日に恵まれ、(2・3日前の天気予報では雨とのことでしたが、それもなく)サンパール荒川大ホールに於いて執り行われました。

第一部の式典では、理事長、学長の挨拶があり、区長、区議会副議長、荒川警察署長よりご祝辞を賜り、そして教育長他、多くの御来賓の方々に御出席を戴いたことが紹介されました。式に出席された新入学の生徒さん、及び大勢の在校生(合計5百有余人)は静かに拝聴しました。

新入生を代表して、東日暮里五班の丸橋浩子さんによる“誓いの言葉、が望月学長の前で述べられ、校歌を全員で斉唱して第一部は終了しました。

第二部では、学長により、三十二教室の講師の紹介があり、そして新役員を含む各担当の役員並びに各地区長が理事長により紹介があり、亦その後地区長による班長紹介で滞ることなく式は全て終了致しました。

此の式典を施行するにあたり、会場準備・来賓接待・受付等いろいろな役をお願いした役員並びに班長さん方にはご苦勞をお掛けしたことを、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

進行役担当 副理事長 宮澤健一

★広報部よりお知らせ

4月1日の役員会の時、シルバー大学について意見が出ました。《創立30年ともなると、戦争の思い出もなく戦後の新しい教育を受けた方々がシルバー世代となり、当校に入学してくる方も多くなりました。この大学に希望を持って入学して気づく事もあるでしょう。希望が果たされないままに心に影をつくるようでは、入学した意味がありません。大学の側でも見当する必要があるのではないか》この様な意見でした。

・・・皆さんに大学の為に発言してもらいたいと思います・・・

『言葉にすると批判されるのではないかと不安になられる方もいらっしゃると思います。どんなに良い意見でも、学生全員に伝わらなければ無意味です。伝える方法として、「シルバー便り」があります。

どうぞ広報部を書いて送ってください。シルバー大学の根底に流れている所は、くずさずに見当します。より良い大学にする為に、あなたの一言が大学に大きな花を咲かせるかも知れません。世論は大切だと思います。待っています。

スポーツの楽しさを知った日



目的がないと、腰が上がりなくなった。1日1回は体を動かさなくては。解ってはいるのだけれど、テレビの前にだけ座っている。いざ立とうとする時の膝の痛いこと。かと云ってニュース以外見たいテレビもない。どの局も同じようなものを放映している。テレビの休日もあっていいのでは、と思いながらも、見もしないテレビを一日中つけている。年を取ると人の声が恋しいのかも知れない。

でも3月は高校野球が始まる。楽しみ。スポーツは自分が出来ないせいか、興味がなかった。子ども二人も社会人になると、一人の時間が多くなった。やる事もなくてテレビをつけると、高校生らしい生徒が一生懸命白球を追っていた。応援のすごさにしばらく画面を見ていたら、アナウンサーの声が聞こえてきた。

「山あいの子に大海を見せてやりたい」と生徒を指導してきた。蔦監督の部員に対しての厳しい練習の様子を説明していた。監督の顔も映った。日焼けした顔、頭には白くなった髪も目についた。部員は試練を乗り越え、甲子園に連れて行きたいと願う監督の情熱が実って戦っていると思えて一生懸命見ていた。終わった。

昔の事なのでどっちが勝ったのか、負けたのかも覚えてはいないのだが負けた方の選手が土のついてる袖で涙を拭いてる姿を見て胸が熱くなった。そしてスポーツって何だろう。誰の為に泣くのだろう。野球の知らない私をこんなに感動させて。それから、高校野球が好きになった。

四国を旅した時、池田高校を見に行った。徳島県の西端にあった。車の窓からなので校舎しか見えなかった。運転手さんが「蔦監督は日本でも有名な監督でした。春夏3回甲子園に出場したが、豪快な野球でしたよと、誇らしげに話してくれた。」先日の新聞に22年ぶりに選抜で甲子園に復帰する池田高校と載っていた。高校野球の選手は文武両道だと聞く。

蔦監督は平成13年77歳で世を去っている。でも池田高校の試合のある日は、あの監督を思い出しながら見ようと、今から楽しみにしている。

あの日の野球が私にスポーツの楽しさを教えてくれたのだから。

広報部長 佐藤恒子

蔦監督：選抜高等学校野球大会優勝監督 全国高等学校野球選手権大会優勝監督

蔦語録：❖「山あいの町の子供たちに一度でいいから大海を見せてやりたかったんじゃ」 - (1971年夏、甲子園初出場時)。この言葉は校門横の石碑にも刻まれている。❖「ワシはバントとかコツコツ当てていく野球は嫌いなんじゃ。野球に理屈はいらん。思い切り、のびのび打った

らええんじゃ」 - 1982 年秋 ❖ 「ワシがノックバットを離すときは監督を辞める時。ワシは死ぬまで離さんぞ」 - 1987 年春

5 月 の 行 事 予 定

期 日	行 事	講師プロフィール
22 (木)	平成 26 年度 第一回合同講義 落 語	嘶家 柳家三三 (さんぞ) 2006 年 真打昇進
会場 : サンパール荒川三階 (小ホール) 時間 : 午後 2 時より (無料)		

◆◆◆◆◆ 学 園 日 誌 (4 月) ◆◆◆◆◆

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1 日 役員会(学校案内他配付) | 14 日 平成 26 年度開講・入学式 |
| 7 日 入学式打ち合わせ(サパール) | 在籍総数 901、内新入生 113 |
| 11 日 規約・名簿印刷完成 | 28 日 広報委員会 |
| | 30 日 シルバーだより 287 号作成 |

※事務局だより※

1. 講義及び講座開始の件：日時・会場は学校案内書類・日程表または学校の掲示板をよく見て確認して下さい。又教室使用後の掃除、戸締りを確実にを行い、教室で出たゴミは責任を持って各自お持ち帰りください。
2. 教室使用手続き時間の件：生涯学習センター窓口への【使用承認書】提出時間は、午前教室は 9 時 30 分より、午後教室は 12 時 20 分より。時間厳守でお願い致します。又終了後の鍵他の返納は速やかにお願致します
3. 日程の変更について
6 月のフラダンス教室：9 日と 23 日になります。
6 月の音楽教室：7 日と 28 日になります。



※荒川シルバー大学【事務所】営業時間のご案内

(月～金曜日) 午前 9 時 30 分～午後 4 時 (土日祝祭日は休み、
(事務所) TEL3801-5740 FAX3801-5691
(ホームページ) <http://www.arakawa-silver.com/>

室長：田原